

地域ボランティアプログラム

松木日向緑地プログラム

竹林整備＋竹や緑地の中

のものを使った制作

プログラム単独実施

2022年12月18日（日）

報告

整備と利活用を考える

「地域ボランティアプログラム（松木日向緑地プログラム）」の活動として、松木日向緑地の竹林整備活動6回目を実施しました。今回は、「竹の利活用」をテーマに、伐採した竹や緑地の中のものを活用した制作を行いました。今回は地域ボランティアプログラム単独での活動で、参加学生8名（メンバー2名、サポーター6名）、職員3名で実施しました。

当日は明け方まで冷たい雨が降っていましたが、集合時には快晴になりました。今回は13号館東側にある真竹・モウソウ竹が混在するエリアに向かい、斜面の階段を下った場所で、2グループに分かれ、竹林整備に取り組みました。

整備していただくだけではなく、「竹の利活用」を考えながら進める活動は楽しいものです。門松、手水桶、花瓶、湯飲みなど想像しながら、太い竹から細い竹まで各人の創作目的に合う竹を選んで伐採しました。約1時間の伐採の後、切った竹のうち、制作に必要な竹を運び、13号館東側の運動場に搬入しました。太い竹の幹は非常に重たく、斜面階段を登るのは大変でした。

制作開始！

運動場に広げた竹を各自見繕いながら、制作を開始しました。お正月も近いということで、門松に取り組むメンバーが複数名いましたが、お互いが作っているものを見ながら修正したり、変更したりしていきました。取っ手の付いた手水桶を、太い竹から切り出して作る学生もいました。他に湯飲み・お酒の御猪口、器や竹踏みの制作も見られました。

竹や緑地の中のものを使った制作物

門松作り



今回の活動場所



首都大学東京・東京都立大学 ひなたブック製作委員会『ひなたブック』, 2007より

クリスマスリースの材料を持参したメンバーもいて作り始めましたが、ちょうど良い木の实がなかなか見つからず、残っていた鮮やかな紅葉などを材料にしました。

ノコギリで裁断し、ナタを振るい、キリで穴を開け、ヤスリで表面をきれいに削るなど、それぞれ楽しく工夫していました。活動時間内に完成したメンバーもいれば、途中までというメンバーもいましたが、自宅で仕上げたり、装飾したりすると、それぞれが今日の制作物を持ち帰りました。

制作作業を始めたころ、急に低く雲が立ち込め、冬らしく雪が舞いました。すぐに雪は止んで晴れましたが、気温があまりあがらないため、座って作業している間は寒さが身に沁みました。今日の活動でも大きな怪我もなく、無事に終了できました。

活動中に気づいたこと

前半に竹林整備をしていく中で、以前に伐採した竹の切り株が大量にある場所があり、それらが枯れ、整備を進めるにあたり邪魔になっていることに気づきました。今回全部は除去できなかったため、次回伐採（除去）しようという話になりました。

参加者の声

- みなさんの作業をみて楽しく感じました。
- 切断した竹を使つての竹加工（有効活用）ができて良かった。
- 工作においてナタがあるとスムーズに行く。
- ボランティアの中にも楽しさ、楽しみが必要なんだと改めて感じた。
- やはり切った竹が至る所に重ねられており歩道がかなり狭くなっていました。そのため重ねる場所は考える必要があったと感じました。